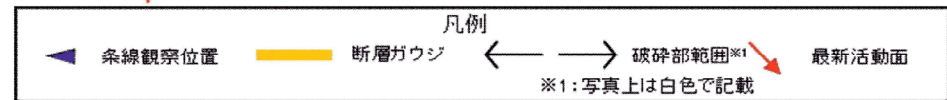


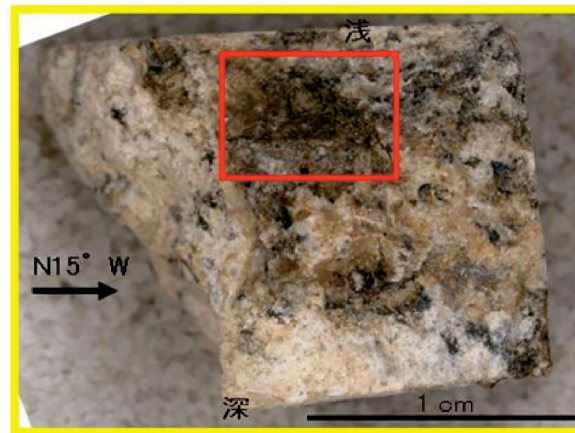
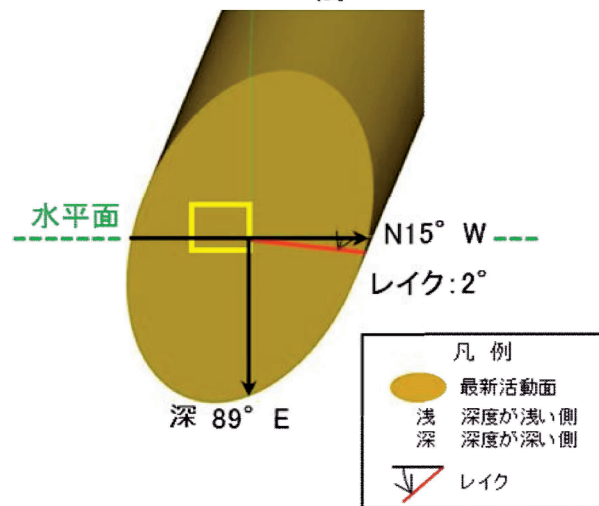
H27-B-3 深度99.50~99.68m 最新活動面の条線方向 (No.125) を変更

- H27-B-3孔 深度99.56mの断層面の走向・傾斜はN15°W89°Eであり、2Rの条線が認められる。

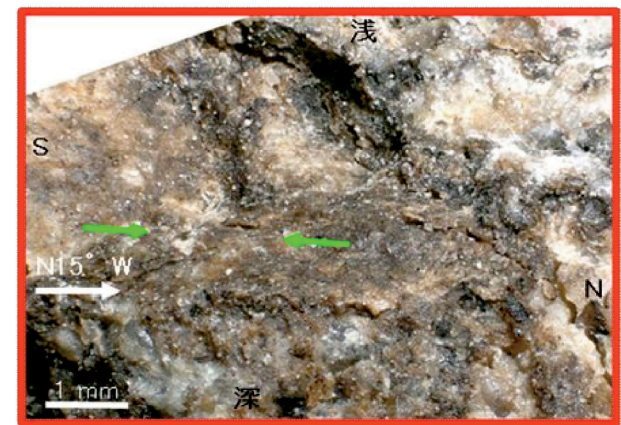
コア写真



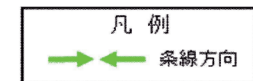
※上盤側から観察



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



・前頁の図3に、計測した条線値を走向・傾斜等を用いて補正したレイクを赤線で表示している。

図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図

H27-B-3 深度99.50~99.68m 最新活動面の条線方向 (No.125) を変更

- 条線観察位が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



凡例  
 ← → 破碎部範囲\*  
 ※:写真上は白色で記載  
 ↘ 最新活動面

研磨片写真(コア向き)



0 5 cm

凡例  
 ↖ 試料切断方向

条線観察位置



0 5 cm

凡例  
 ◀ 条線観察位置

研磨片作製位置



青枠部拡大  
 0 5 cm

凡例  
 ↘ 最新活動面

試料切断面



0 5 cm

凡例  
 ↘ 最新活動面

条線観察位置拡大



黄枠部拡大  
 1 cm

**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

- ・最新活動面の深度を119.18mに変更 (No.126)

【理由】コアの再観察を行い、細粒部を伴い最も直線的である119.18mと再認定した。

- ・全景写真の記載をアプライトに修正 (No.127)

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

- a 最新活動面を「119.18m」に変更 (No.126)
- b 全景写真の記載を「アプライト」に修正 (No.127)



H27-B-3 深度119.11~119.25m 最新活動面の深度 (No.126) の変更、全景写真の記載 (No.127) の修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料1 薄片観察結果

参考1-34頁

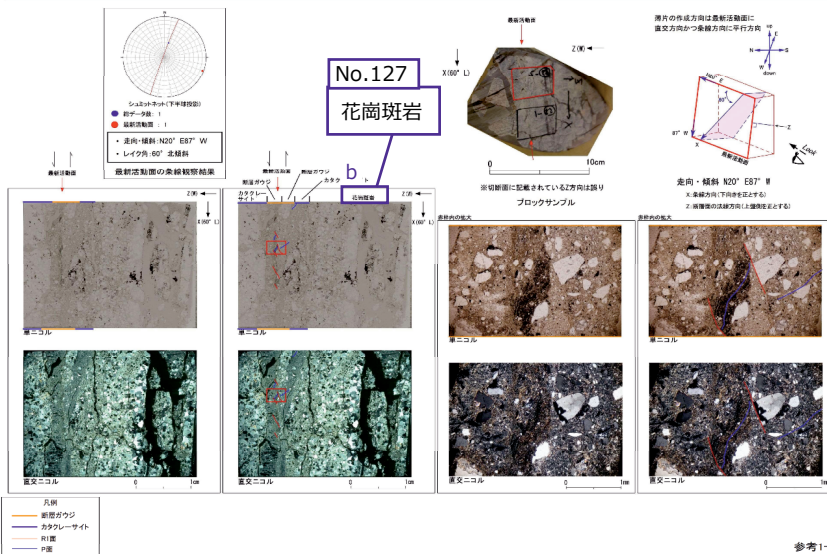
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.126  
119.15 m

No.126  
a (フォーム見直しにより数値の記載なし)

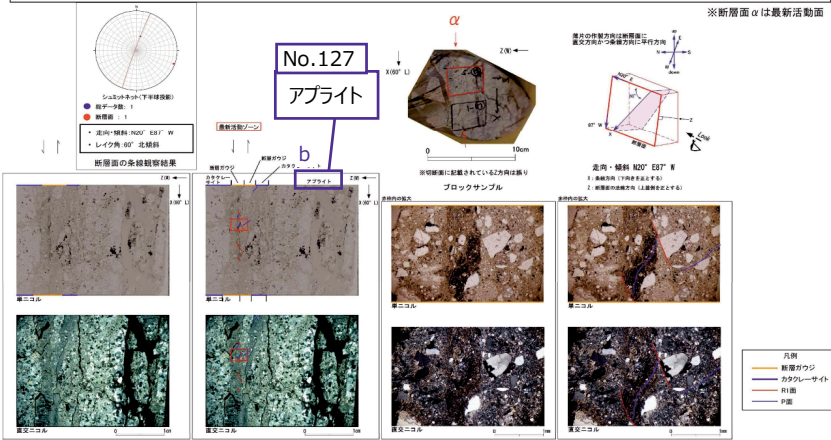
D-1破砕帯 薄片観察 (H27-B-3 深度119.15m)

H27-B-3のボーリングコア(深度119.15m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の方位センスは、右ずれを伴う正断層である。



参考1-34

H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。  
最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、両者の特徴からカタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられ、断層ガウジと判断した。  
断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。  
断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。  
断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。  
岩片は少ない。  
断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。  
カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。



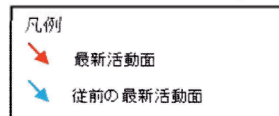
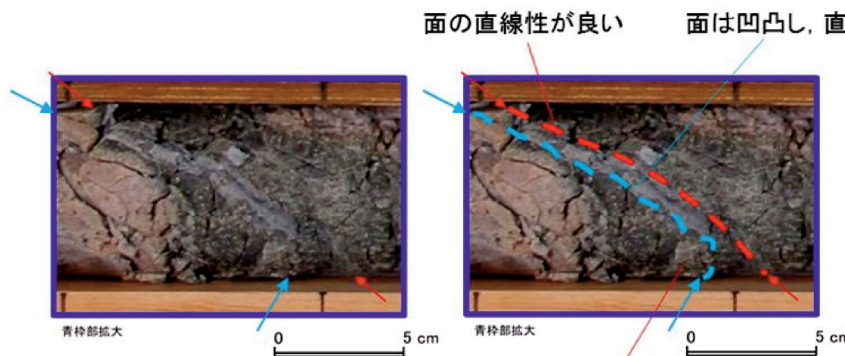
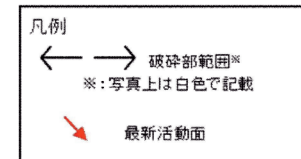
第7.4.4.335図 (3) 破砕部性状 H27-B-3 深度119.11~119.25m (変位センス、薄片観察による断層岩区分(1/3))

H27-B-3 深度119.11~119.25m 最新活動面の深度 (No.126) の変更

- 従前提示していたデータでは性状一覧表に数値の記載はないが、最新活動面の位置として、コア写真の下側の矢印を断層ガウジではない同色の岩片を断層ガウジと誤認して付けており、それとコア写真の上側に正しく付けた矢印とを結んで深度119.15mとし、薄片観察結果にも深度119.15mと記載していたが、以下のことから、最新活動面の深度を「119.15m」から「119.18m」に変更する。
- 当初のコア観察では、深度119.18mを主せん断面としており、深度119.15mをせん断面とするような記載はない。コアの再観察においても、細粒部を伴い最も直線的であることから、深度119.18mが最新活動面であることを確認した。
- 従前提示していたデータの最新活動面の矢印の位置及び深度は、上記に示したように誤認したことによるものである。

最新活動面認定根拠 (H27-B-3 深度119.11~119.25m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度119.18mのせん断面を最新活動面に認定した。



断層ガウジと同色の岩片が近傍の断層ガウジとつながって見えたため、最新活動面を水色矢印の位置に付けてしまった。

※コア観察カードの主せん断面はコア観察者の記載した最新活動面の深度(見立て)である

最新活動面\*の記載

該当箇所のコア観察カード

○ 119.11~119.25m: 破砕帯 (主せん断面 119.18m)

119.11~119.16m: Hc  
 上部60°で連続的、下部60°で漸次で連続、f<sub>2</sub>~10% 角礫状  
 岩片の面、断面は1mm以下で白色、1~3mmで緑色の面  
 も平面的粘土と12%の「粘土塊の岩片」と見られ、色調は13%程  
 (254K 74)~20%程 (1094%)、厚さ 30mm  
 119.16~119.18m: Hc-1  
 60°で上部60°で、下部15°連続的に連続、f<sub>1</sub>~10% 破砕岩片  
 に含む軟弱粘土(10%)、色調は緑灰(1094%)、厚さ 7~10mm

面の直線性・連続性の記載

H27-B-3 深度129.84~129.91m 全景写真の記載 (No.128) の修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

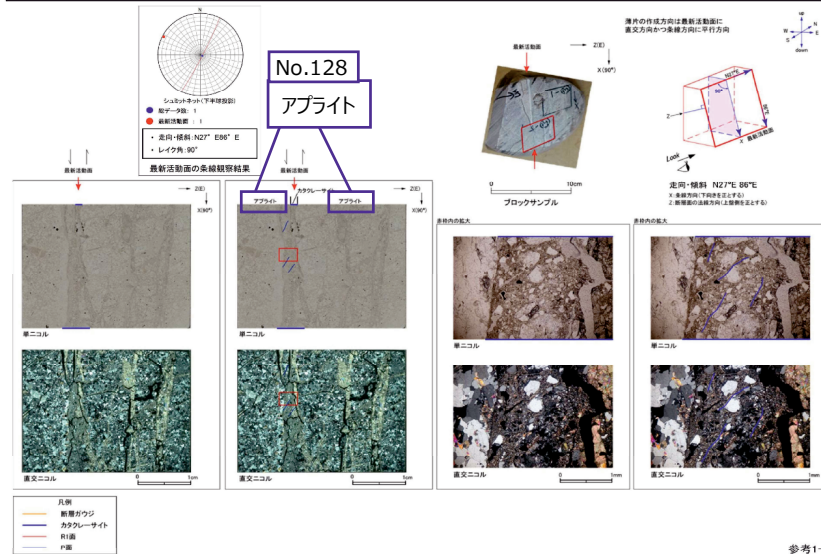
参考資料1 薄片観察結果

参考1-248頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

非モデル化破砕部 薄片試料観察 (H27-B-3 深度129.84m)

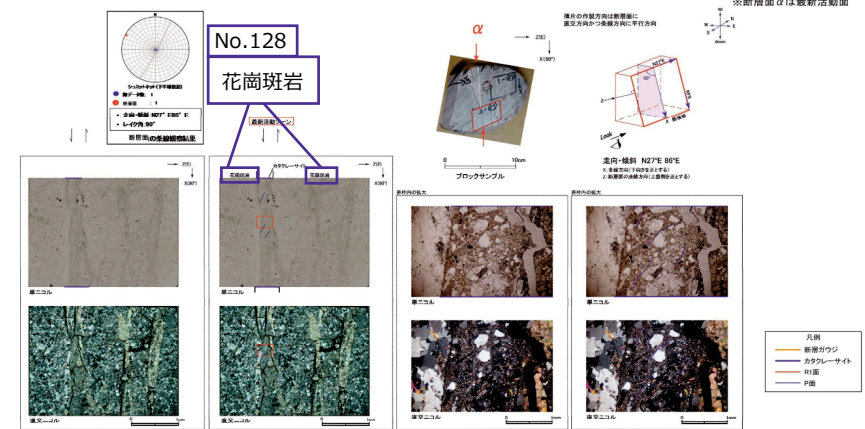
H27-B-3のボーリングコア(深度129.84m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。



参考1-248

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。  
 > (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。  
 > (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。  
 > (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。  
 > (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。  
 > (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。  
 > (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。  
 > (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

6-7-1220



第7.4.4.336 (3) 破砕部性状 H27-B-3 深度129.84~129.91m (変位センス, 薄片観察による断層区分(1/3))

**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・破砕幅を18.9cmに変更（No.129）

【理由】コアの再観察により破砕幅を計測した結果（破砕部の区間長が長く、図  
化して算出）、破砕幅は18.9cmと判断した。

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

a 破砕幅の記載を「18.9cm」に変更（No.129）



